

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

- 1 私たちは、法令等を遵守します。
- 2 私たちは、不祥事を起こさず、許しません。
- 3 私たちは、地域に信頼される学校にします。

不祥事根絶のための行動計画

東広島市立福富小・中学校
作成責任者 校長 小島 美樹

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○サービス研修において、体験的な演習が少ない。 ○本校の教職員は不祥事を起こさないだろうという意識が若干ある。 ○小・中学校の人間関係において遠慮があり、不祥事につながる可能性のあるサインを把握しても注意・指摘を躊躇する傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な研修（ロールプレイ・グループ協議等）を行い、研修効果が実感できるようにする。 ○誰もが不祥事を起こす可能性があるという当事者意識をもつようにする。 ○気付いたことを伝え合い、管理職に報告・相談できるような風通しのよい職場づくりをする。 ○「教育の原点」を携帯し、不祥事根絶に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サービス研修計画に研修方法・資料を明記するとともに、いろいろな研修方法を提示する等、方法や内容を改善する。 ○研修を教職員が分担して企画し、当事者意識をもってサービス研修を行う ○研修の終わりに、振り返りカード・チェックリストの記入や机上整理のための時間を設ける。 ○管理職は、個人面談や日々のコミュニケーションにより教職員の人間関係を把握し、適宜指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修後に振り返りカード・チェックリストを書き、校長が点検する。(月1回以上) ○毎回の研修後に、管理職としてのまとめを行い、研修の成果と期待することを提示する。 ○年度末に1年間を振り返り、不祥事根絶のための意識を再確認する。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校と中学校の日課表が異なるため、合同で研修を行う時間の確保が難しい。 ○教諭以外にも様々な職種の職員が勤務しており、連携や共通認識を図ることに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員同士のコミュニケーションをさらに促進し、協力して仕事を進めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○部会や委員会で互いの仕事の進捗状況を確認し、特定の者に負担がかからないようにサポート体制をつくる。 ○保護者対応・児童生徒指導対応においては、誠意をもち迅速に対応する。 ○報告・連絡・相談を密に行い、組織的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○月1回不祥事防止委員会で情報交換を行い、状況を把握する。
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知を徹底する必要がある。 ○保護者や児童・生徒からの情報が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」を児童生徒や保護者に分かりやすく提示し、迅速・的確に対応できるようにする。 ○保護者や児童生徒からの情報収集の機会を設ける。 ○児童生徒の実態を把握し、保護者と前向きな相談ができるよう教職員と児童生徒・教職員間の信頼関係づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だより・HP等で保護者に周知するとともに、校舎内すべての教室にポスターを掲示し、担当教職員を明示する。 ○アンケートや懇談会等、児童生徒・保護者の思いを聞く場を設ける。 ○担任、養護教諭等からの情報収集を行い、児童生徒・保護者の思いに沿い、即時・丁寧に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価と合わせて、学期末にアンケートを実施する。 ○生徒指導記録簿（学年ごと）を作成し、児童生徒・保護者からの情報を全体で共有できるようにし、指導に活用する。